

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

発展のある繰り返し(反復練習)～「学び」「気づき」のある繰り返し指導のために～

2年生の「Unit6 Research Your Topic」では、自分の関心のあるテーマでアンケートを作成し、学校の生徒及び教職員にリサーチをしています。アンケート回収及び集計に少し時間がかかるため、その間授業では、グラフを用いたプレゼンの練習を繰り返しています。前時は、次のような活動を行いました。

- 1 与えられた別々のトピックについて、クラスメイト全員に英語でインタビュー調査をする。
- 2 得られたインタビュー調査の結果を、ペアになり即興の英語で説明する。
(ただし、表現集(プリント)は必要に応じて用いてもよいこととする)

最初の「1」の活動では、ただの一问一答に終わらず、そのトピックで一定時間会話を続けるよう指示しました。「2」ではペアになり、調査結果を1分30秒ずつ即興で報告し合うという活動をローテーションでペアを替えて繰り返しました。(途中、中間指導なども加えました。)
「According to my research...」「As a result of my research...」「I'm happy to know that...」「I found that...」といった表現が生徒たちの口から抵抗感なく出てくるようになるなど、これまでの形を変えた反復練習の成果が見られました。



本時では、実際に生徒が選んだトピックについて、教師が結果だけランダムに作成したグラフを生徒に配付しました。生徒に単元ゴールをイメージさせるとともに、学んだことを活用しながらプレゼンをさらに発展させるため、意図的に次のことを仕組みました。

- 1 実際に生徒たちが選んだテーマを扱った。
- 2 生徒には、自分自身が選んだテーマではなく、友だちのテーマのグラフを与えた。
- 3 ペアではなく、全体の前で発表することで、発表のハードルを上げた。
- 4 グラフ配付から発表まで、5分程度の準備時間を与えるのみで、あとはほぼ即興で対応させた。
- 5 自分のテーマを友だちがどのように発表するかを見ることで、自分の発表イメージを客観的に持たせた。



表現の定着を図るため、グラフの説明はこれまで何度も形を変えて行ってきましたが、その都度新たな要素(表現を付け加える、発表対象を変える、即興性を高めるなど)を加え、ハードルを少しずつ上げるように心がけています。単元の新出文法である比較級や最上級だけを扱うのではなく、これらの文法を使用することのよさや必然性を課題に組み込んでいくことも大切だと感じています。来週からは、いよいよ自分のテーマのアンケート結果を集計していきます。

